

林下曹洞宗における相伝史料研究序説（一二）

——雙林寺所藏史料（其四）——

飯塚大 展

はじめに

私見によれば、中世林下曹洞宗における嗣法相統は、大事（参禅）了畢を前提としていたと思われる。少なくとも室町時代以降、室内参禅修行（公案参究）が盛んに行われ、就中切紙や本参類の相伝が嗣法相統と同時に行われ、あるいはそれこそが嗣法相統そのものと考えられていた。

開山月江正文、二世一州正伊、三世曇英慧應の法灯を有する雙林寺は、一州派の拠点寺院として、特に戦国期以降、関東における曹洞宗最大門派の一つとして大きな影響力を持ち続けた。本稿では、一州派の教学的特徴を示すと思われる切紙史料の紹介を行いたい。先ず本参目録の成立について、略述してみたい。室町時代以降、曹洞宗道元派下における公案禅の援用は、その比重を増し、各派毎の本参の目録が作成されるほどに体系化されてくる。室町時代末期から江戸時代前

半にかけて、自派のみならず他派の本参を内包する形で集成され、大部の本参が成立することとなった。雙林寺所藏資料においては、『一州派大筋目一透之参』、『龍淵記』、『蛇窟記』、『彩鳳記』等が現存する。

しかし、このような公案禅の盛行は林下の共通の傾向と思われ、大応派下の二派、即ち徹翁派下（大徳寺派）、関山派下（妙心寺派）では、盛んに密参録が抄出された時代でもあった。五山叢林においても、室町時代後期以降、幻住派が盛んになると、林下の本参や密参録と類似性を持つ抄物が作成されるようになる。

切紙目録の成立も同様の過程をたどり、同時に切紙自体が一紙毎の切紙の形態から、切紙の集成として冊子化して行く傾向がある。これは関東における有力な諸派においても同様であった。具体的に謂えば、雙林寺には「総而四十三之切紙目録」（今回翻刻、後掲）所蔵されており、江戸時代初頭、雙林寺室中において相伝されていた切紙の体系を知ることが

出来る。

また、江戸時代初頭、雙林寺における切紙の相伝については、例えば、「雙林寺切紙・本参目録」(雙林寺切紙 0130)*筆者による整理番号以下同、横長一冊、仮綴じ)には、以下の様に見える。

雙林寺切紙之次第

- (1) 一、永平道元和尚一枚密語、(2) 一、露柱之切紙、(3) 一、榮西記文録、(4) 一、應量器之圖、(5) 一、勃陀勃地之切紙、(6) 一、一州以来巡堂焼香之大事、(7) 一、六祖半紙切紙、(8) 一、大陽玄浮山付語本則、(9) 一、續松之切紙、(10) 一、伝授後之目録、(11) 一、嗣書血脉守護神、(12) 一、拈花之圖、(13) 一、七堂圖形、(14) 一、上来之話切紙、(15) 一、如来付嘱之語、(16) 一、血脉袋子狐之切紙、(17) 一、傳授秘密秘書秘語之目録、(18) 一、佛祖正法眼血脉、(19) 一、三星之圖、(20) 一、道元和尚住吉五个条、(21) 一、一本劔切紙、(22) 一、傳授之参、同傳後之参、

雙林寺代々如斯

- (23) 一、一州以来七佛儀式、道元書狀、(24) 一、大興和尚合判・偏正一致、(25) 一、二句偈之大事、(26) 一、寶鏡三昧圖、(27) 一、過去七佛傳授之切紙、(28) 一、拂子切紙、(29) 一、寂靈撰出之法語、(30) 一、應身之録上

段」(31) 一、拄杖・拂子・竹篋之大事、(32) 一、梅花嗣書切紙、(33) 一、曹洞山居判形切紙(當寺ノガニテハナシ)、(34) 一、迦文勒三説大死底本則、(35) 一、佛祖正傳要法空塵書中段、(36) 一、無極和尚カタ假字目録御自筆ノ写シ。」

本書ハ補陀寺ニ在之。(1ウ)

- (37) 一、鐵漢大事之切紙、(38) 一、戒法傳授之作法、(39) 一、佛具三種之切紙、(40) 一、頂門眼之切紙、(41) 一、略道場之儀軌、(42) 一、祝聖之切紙、(43) 一、訓訣之切紙、(44) 一、卮之切紙、(45) 一、法嗣付与帳、(46) 一、嗣書袋・袈裟袋之圖、(47) 一、堪忍之切紙、(48) 一、道場莊嚴之切紙、(49) 一、太白峰合血之圖、(50) 一、傳授之作法、(51) 一、嗣書傳授之作法、(52) 一、曹洞三位之切紙、(53) 一、當参話目録并月之兩個、(54) 一、菩薩戒之作法大儀規、(55) 一、問訊之大事、(56) 一、夜半傳授之作法、(57) 一、天童如淨与道元嗣法論、(58) 一、門徒了畢之判形出様、

従事鶴峰和尚^并諺山和尚^并洪州受取、大通和尚^江相渡切紙之目録、大概^并如斯。以来代々如此相調、小師^七可被相渡者也。」

洪州察叟(花押)

最大山雙林寺本参之」目録^并夜参之秘訣、同」秘傳之書相渡候

分)

(中略)

寛永十五年^{戊寅}年正月吉辰「

洪州蔡老衲(花押)

無極派・一州派の切紙の目録は、長年寺所蔵の史料にも

「當門徒嗣書添渡次第目録」として収載されている。

當門徒嗣書添渡次第

一、達磨一心戒作法、二、空塵書(二段書之、長故^ニ)、三、自家訓訣、四、龍天勘破話、五、大儀機、六、小儀機、七、梅花卷、八、十八般妙語、九、榮西記文録、十、卵形図、十一、國王授戒作法、十二、國王授形圖、十三、龍天授戒作法、十四、龍天授形圖、十五、^(五方)吾位圖、十六、君公書、十七、達磨傳法偈、十八、七佛傳法儀機、十九、同傳法授戒機、二十、勃陀勃地梵語、廿一、普門品相承、廿二、拈花微笑^一則、廿三、永平開山密語、廿四、血脉包樣次第、廿五、道場莊嚴次第、廿六、卍字嗣書上法、廿七、三星星樣、廿八、天童十三則、廿九、了畢判形圖、三十、達磨知死期法、卅一、六祖半紙大夏、卅二、俱胝一指本則、卅三、月兩箇、卅四、外道問佛金鎖圖、卅五、宝鏡三昧圖、卅六、順堂燒香儀式、卅七、亦道場莊嚴機、卅八、太白峰記(嗣法合血)圖、卅九、太白峰記(心王主之)三昧、四十、太白峰記隱身三昧、四十一、同小儀機、四十二、同道場儀式、四十三、沒後作僧儀式、四十

林下曹洞宗における相伝史料研究序説(一二)(飯塚)

四、嗣法添物諸録、四五、嗣法論、四十六、達磨歌、四十七、佛知死期法、四十八、生死夏大、四十九、三門切紙、五十、八句夜參作法、五十一、夜參行作法、

無極一派切紙之目録可秘々々。

この目録と同種のものが、雙林寺にも相伝されており、天正七年(一五七九)の奥付を有する。更に一州派の本参史料である長年寺所蔵『門戸之書籍』には、その冒頭に、切紙の目録が付載されている。

○切紙(1)○七佛傳受作法、(2)○拈花本則、(3)○夜參之作法(4)○卍字之圖、(5)○佛祖正傳鐵漢大事、(6)○三滲漏大夏、(7)○佛祖正傳勃陀勃地、(9)○達磨知死期、(9)○佛祖正傳菩薩戒之血脉、(10)○傳受之次第、(11)○佛々祖々密室圖、(12)○傳鉢義記、(13)○佛祖正宗空塵書(下段)、(14)○上來之切紙、(15)○三宝印之參、(16)○合血之作法、(17)○師命受持椅子作法、(18)○卵形之圖、(19)○嗣法論、(20)○御大事參、(21)○佛祖正傳曹洞宗君決、(22)○龍天勘破話(血脉、(23)○山居圖、(24)○同血脉、(25)○宝鏡三昧之圖、(26)○勃陀勃地之參、(27)○勃陀勃地梵語、(28)○上來之切紙、(29)○竜天勘破切紙、(30)○自家訓訣、(31)○二句之偈機縁、(32)○大魔境、(33)○榮西僧正記文、(34)○火焰裡之宅、(35)○道元和尚置文、(36)○八句夜參作法、(37)○峩山不識上法語、(38)○月之兩箇、(39)○國皇授戒作法、(40)○宏智八

句、」(41)○龍天授戒作法、(42)○下炬之參、(43)○最極無上圖、(44)○入棺之切紙、(45)○了畢判形之樣、(46)○阿字、大事、(47)○佛祖正傳戒法書、(48)○傳授作法、(49)○沒後授戒作法、(50)○問訊之圖、(51)○戒法傳授作法、(52)○傳授之參、(1才) (53)過去七佛之血脉、(54)○同傳授之參、(55)○居士之作法、(56)○一心之大事、(57)○了畢切紙、(58)○傳授之卷、(59)○七堂之切紙、(60)○嗣書燒却、(61)○沒后作僧義記、(62)○拈花之參、(63)○拄杖起基、(64)○道場作法、(65)○篋竹之義記、(66)○拂子之義記、(67)○守護儀句、(68)○疊字奇拜、」(69)○三世諸佛向火焰裡大法輪点、(70)○頂相儀句、(71)○祝聖之切紙、(72)○妙之字、(73)○順堂燒香之儀句、(74)○生死叟大、(75)○道歌、(76)○六祖半紙、(77)○峩山和尚一枚法語、(78)○普門品相承、(79)○妙來法王語、(80)○應量器、」(81)○曹溪傳授之切紙、(82)○合判之大事、(83)○樹上話之切紙、(84)○非人引導、(85)○龜背宝塔密紙圖、(86)○以字不成、(87)○大白峯記、(88)○三明星、(89)○三說大死底本則、(90)○佛祖眼目大叟、(91)○祝聖傳授、(92)○死灰之切紙、(93)○臨濟家一枚血脉、(94)○死母別腹、(95)○續松之切紙、(96)○同參禪、」(97)○御大事、(98)○諸目錄話頭目錄、(99)○臨終問答切紙、(100)○塚火消切紙、(101)○十八般之妙語、(102)○梅花之卷、(103)○大儀軌、(104)○小儀規、」(1ウ) 雙林寺には、外に、無底派の切紙目錄である、「切紙之目

録」(0133-004) が所蔵されている

無底一派切紙之目錄總之切紙、以是可包也、密用也。

一、道場莊嚴之次第、二、嗣書袋之圖、三、嗣書之地之様子、四、鉢孟之圖、五、相傳之經偈、六、袈裟囊之圖、」七、自家之訓訣、八、天童嗣法論、九、榮西僧正記、」十、釈尊遺戒偈、十一、血脉之因縁、十二、國王授戒之作法、」十三、國王授戒之血脉、十四、龍天授戒之作法、十五、龍天勘破機縁、」十六、龍天授戒之血脉、十七、卵形之圖、十八、空塵書、」十九、大叟之上之大叟、二十、二句之偈傳授、廿一、六觀音之圖、」達磨知死期之偈、廿三、曹溪傳授之半紙、同傳授之圖、」廿四、宝鏡三昧之圖、廿五、牛窓橋之圖、廿六、即身佛之圖、」廿七、末后之句之圖、廿八、七佛之嗣書、廿九、樹上之圖、」卅、月之兩箇、」

江戸時代初頭以降、雙林寺における切紙相伝は、自派（無極派・一州派）の集成・体系化にとどまらず、更に他派の切紙を内包していったものと思われる。

一州派の教学的体系は、江戸時代初頭から前半における永平寺のそれにも影響を与えている。¹⁾ 永平寺所蔵「切紙目錄」は、永平寺二七世嶺巖英峻（万照高国禪師）によってまとめられ、同寺二十九世智堂光紹が相伝したものであり、百五十七種の切紙を列記した後に、「參禪卷冊覚」として、別に十二種の本参資料の目錄が附記してている。さらに永平寺第

三四世叡州高郁（大仙国光禪師、元禄元年（一六八八）示寂）が、貞享五年一〇月永平寺退院に際して記録した「伝授室中之物」にも、永平寺室中において伝授相伝され、室中の参禅箱に収蔵された本参・切紙類が列举されている。ちなみに、智堂は、長年寺住持を勤めており、一州派の本参・切紙史料を相伝している。

以下、雙林寺所蔵の切紙の一端を翻刻したいと思う。

注

（一）永平寺史料全書編纂委員会『永平寺史料全書禅籍篇』第一

四卷（大本山永平寺、二〇〇三～二〇〇七年刊）

永平寺史料全書編纂委員会『永平寺史料全書文書篇』第一・二

卷（大本山永平寺、二〇一二・二〇一七年刊）

拙稿「林下曹洞宗における相伝史料研究序説（一）」永平寺所

蔵資料（上）（『駒澤大學佛教學部研究紀要』第六六号、二〇

〇八年三月）。

〈キーワード〉雙林寺、切紙目録、一州派

〔追記〕

末尾乍ら貴重な史料の翻刻を御許可戴きました、雙林寺御住職石附正賢老師に甚深の謝意を表します。史料翻刻に際して曹洞宗文化財調査委員会所蔵の影印資料を参照させて頂きました。併せて関係各位に感謝申し上げます。

林下曹洞宗における相伝史料研究序説（一二）（飯塚）

本論稿は、『禪と心』研究の学際的国際的拠点づくりとブランド化事業」の研究成果である。

【翻刻凡例】

一、本史料翻刻に際しては、底本には、双林寺所蔵切紙を用いる。

一、底本の翻刻の体裁は、史料の原形をできうる限り反映させることを原則としたが、掲載の都合で図と本文との関係（前後左右）を変えた場合がある。文字の大きさも同様に、必ずしも統一できていない箇所がある。

一、翻刻に当たっては、異体字・略体字・別体字・俗字等は、原則としてその書体に近い形で翻字を行った。ただし一部現行の書体にて翻字した場合がある。省文等も同様である。また、明らかに誤写と思われる部分については、また脱字が明かな場合には、必要に応じて他のテキストを参考にし、傍注を付した。

一、踊り字について、片仮名は「ゝ」、「ゞ」、「ゞ」、漢字は「々」、「々々」を用い、二字以上の「く」「ぐ」「ぐ」も用いる。

一、合字の「ㄣ」「ㄣ」「ㄣ」「ㄣ」は、そのまま翻字する。

一、濁音・促音等の表記は、原文のままに翻刻し、敢えて統一ははからない。

一、句読点に関しては、読解を便ならしむるために適宜これを補う。

一、改行は、『』を用いた

本論文において翻刻した史料には、現代社会の視点から見ると、人権侵害に該当する差別的内容を有するものがあるが、歴史史料の性格上、そのまま掲載した。史料の取り扱いには、差別の助長や拡大にならないよう、十分注意していただきたい。

双林寺切紙 〇一四 空塵書

(141) 空塵書

釋迦牟尼佛 空塵書 摩訶迦葉 教主歟

正安元年^{壬辰}四月十五日上堂^ニ因^デ、世尊ケウシユ花」ヲ拈^テ、八万人ノ大衆、五百人ノ上足^ノ中^ニ指上玉ウ。大衆方」便ヲメグラシテ、同見ントスレドモ、世尊ノ心^ニ叶ワズ、迦葉」一人微笑ス。世尊云、我正法眼蔵、涅槃妙心アリ。迦葉」付属ストノマウ。サテ、後夜^ニヲイテ、佛々ノ義式^{（儀カ）}ヲナサント」ス。八万ノ大衆、五百人ノ上足^ノ目ヲ忍^シ、耳ヲフサギ、夜半^ニヲ」イテ、靈山溪川ノ洞、ウバラ樹ノ室ニ入玉ウ、廣^ク四間、世尊ハ金象」獅子ノワダカマル上ニ、西ニ向テ坐シ玉ウ。迦葉ハ東^ニ向テ、西^ニ坐シ玉ウ。外面クラクシテ、通

所相ガタシ。則チ照鷄此室^ニ」來ル。照鷄トハ、トリノ名ナリ。兩頭ナリ。色ハ赤白、九所マダラ」ナリ。頭^{トウ}中ヨリ火炎ヲ出シ、此室^ニ有テ、ヒトエニ灯ノゴトシ。即法」火發スル所也トテ、世尊天ニ向テ同時ニ礼拜シ玉ウ。迦」葉坐具ハ上ニ有、世尊ノ坐具ハ下ニ有テ、礼三拜アリ。前」佛後佛之儀式同クシ玉ウ。即兩鏡ノ面ヲ合^テ、既^ニ袈」袈ノ威儀ニテ頭ヲカクシ、上ノ鏡ヲ世尊ノトリ玉ウ、下ノ鏡ヲ」バ迦葉取玉ウ。影ヲ移シ玉ウニ、師ノ持玉ウ鏡ニワ、迦葉ノ影」アリ。迦葉ノ持玉ウ鏡ニハ、世尊ノ影有。是即佛々ノ通所ナリ。」如是畢テ、袈袈ノ威儀ヲ以テ頭ヲマキ、摩頂^ノ云、兩」鏡正ニ通用ナリ。正法眼蔵ヲ傳テ、尽未來際、勿令斷」絶。是即佛々口口ノ偈ト云也。次一鏡ノ影ヲウツシ、中^ニ世尊」御名移シテ、一鏡ノ影ヲイタ、キ、迦葉御名、舌ノ血ヲ合礼」有。木筆ヲ以テ名字連、前佛後佛之儀式如是。末代」之佛佛ヲイテ勿令斷絶。如是儀式ナルニ依テ、佛菩」薩ノ頭光、一鏡ノカゲナリ。又云、紫雲ナリ。如是二十年畢テ、」切利天ニマシマシテ、十二年摩耶經ヲ説玉ウ。八万ノ大衆白」佛言ク、此經文ノゴトキンバ、是法平等ノ一會^ニ入ズンバ、三界ノ亡人イカニノ度シ玉ウベキ。願ハ方便ヲメグラシテ度」シ玉エト悲ム。佛ケ之言、一會ノ方便ヲ以テナリト、コンザ^{（金剛）}ウ^{（戒カ）}戒ヲ」説玉ウ。一鏡ノ面テアラワル、頭^ニイタギ、世尊ノ御名アラワシ、」前佛後佛ノ名字ヲ連子^ネ、舌ノ血ヲカタド

リ、自他ノ頭ニソ、キ、」照鷄ノ灯ヲ傳ウ、九所マダラナルニタトエ、續松ヲナス。諸佛之儀式、佛佛之命根ナリ。道場ハ塔也。ガクハ皈傳塔トアラ」ワシ、菩薩・聲聞・緣覺、雲ノ如ク集ル。摩訶陀國ノ大王、六万」人ノ眷属ヲタナヒキ、此平等ノ一會ニ至ル。六種震動シテ天地」ヲ動ズ。爰ニ第六天ノ魔王、佛ヲ障礙ヲセンガ爲ニ、盤石ヲ取」テ、此塔ヲ打クダカントシタガ、此塔ノ数ズ多現メ、イクツトモナシ。」魔王、盤石ヲ取テ、文字ヲ現シ、額トシ、虚空ヨリナゲクダス。」多子塔ト現メ、後門ニツク。十二年畢テ、中天竺ニ弘^{ヒロム}。天台」ノ云、維摩室ニ至迄、如^レ是轉々^{（轉カ）}シ、以テ佛勿^ニ令斷絶^一。此空」塵書ノ如キンバ、末代ニ至ルマデ、疑妄不可有。若不如是」者、天然外道ノ法ナルベシ。此空塵書、モトハ梵語ナリ。久ク」メ文字サダカナラズ。末代ニライテ此ヲ学文トナスベシ。法」スタレル始ナルベシトテ、永平二代之時、教ヲバカナトナシ玉ウ。」本ノ本ヲハ、永平開山之御影之心ニ収玉ウナリ。本ノ料紙」ハ、唐紙ナリ。敢テヒロムベカラズ。正法トハ鏡、眼藏トハ舌ノ血ナリ。」涅槃トハ、大涅槃トナルガ故ナリ。妙心トハ、照鷄ノ燈、付属ト」ハ通所ナリ。」

釋迦牟尼佛、摩訶迦葉、阿難陀、商那和修、優婆塞多、」提多迦、弥遮迦、婆須密多、佛陀難提、」伏駄密多、婆栗湿縛、富那夜奢、馬鳴、迦毘摩羅、」龍樹、迦那提婆、羅睺羅、僧

伽難提、」伽耶舍多、鳩摩羅^{（多説カ）}闍夜多、婆須盤頭、」摩拏羅、鶴勒那、獅子、婆舍斯多、」不如密多、般若多羅、菩提達磨、二祖惠可、」三祖僧璨、四祖道信、五祖弘忍、六祖惠能、」青原行思、石頭希遷、藥山惟儼、雲岩曇成、」洞山良介、雲居道膺、同安道否、同安觀志、」梁山緣觀、太陽警玄、投子義青、芙蓉道楷、」丹霞子淳、長芦清了、天童崇珏、雪豆智鑒、」天童如淨、永平道元、永平懷珙、大乘義价、」洞谷紹瑾、総持紹碩、永澤寂灵、慈眼天真、」龍興清了、長源禪龍、長源禪長、長源三世祥貞、」長源四世啓三、長源五世祖幢、長源六世玄東、」長源七世文虎、長源八世清春、長源九世周看、」釋迦ヨリ周看迄六十八世也。長源十世用益、」佛祖正道勃陀勃地、」

書本云、」

右太宋寶慶元年九月十八日、前往天童景德寺」堂頭和尚授道元式如^{（儀式カ）}是。祖日侍者、于時燒香侍者、」宗瑞知客、廣乎戒儀。太宋寶慶年中傳之也。」右正應五年八月十三日、在^テ正本書寫畢。」

獅子尊者、過去ニテノ妄、是モ大妄^ニ奉納ス。」

尊者、過去ニテ、ケイヒン國カウホト云里ノ獅子崛ニマシマス。過去ニテモ比丘僧^ニテ、ヨロツヲ供養シ玉ウ。教者、所ニテ、禪」教ヲ論ジ玉ウ。法我ヲ越シ、教者ニ毒ヲアタエラル。命即没」ス。此國ノ王是也。尊者、現在ニ因果ヲハタサ

ンガ爲ニ、又獅子」崛ニ入玉ウ。同里ニシウカウト云長者アリ。子ヲ一人モツ、男子」ナリ。十七歳マデ左ノ手ヲ開^ア夏ナシ、又モノヲ言^イ夏モナシ。カタワ」物ナリ。長者是ヲ悲ム。有時尊者」前ニツレテ來ル。童子、尊者ニ向テ偈ヲナシテ云、我今古子、手中現在、皆是」其中、身心舍利。左ノ手中ニ舍利ヲ持ナリ。」

于時元龜三年^{壬午}閏三月念七日」

双林寺切紙〇〇〇參話集

(142) (參話集仮題)

地絹之參」

師云、松竹梅ノ三ヲ、何トテ地ギヌ」ニワ用タソ。代云、ナントナク只アリニ」行テ、世尊ワ松王、迦葉ワ竹王、阿難ワ是梅王、ト云テソウ。師云、ア」レワ何トテ、地ギヌニワ用タソ。代云、白色ノ根本ヲアラワシテソウ。」心ハ、凡夫ノ血脉ニ、ヲサナ名ヲカクベ。」ウマレヲチタハダエガ、世尊、迦葉ヨ。」

合法之參」

師云、合法之真參ヲ。代、万法一如」一合相。師云、点処ヲ。代、目前ヲ指」テ万法、自己ヲ指テ、一如一合相。」

印可之參」

師曰、三宝印ノ宝ニ、ナントツタカラ宝」ヲカイタソ。代、佛法僧ノ三ヲキワ」ムルガ、タカラデソウ。師云、印可ヲ。」代云、師ノマエニ入テ、和尚、大慈大」悲哀^イ愍^イ聽^イ許^イナラバ、印可シタマ」エ。処ヲ、師右ノ手ヲサシアゲテ、イタゞ」キツツカンテ、印判ヲツクモヤウヲナシテ」云、黄河從^ニ源頭^一濁^ル。汝能護」持セヨ。」

仏頂上之一圓參」

師云、頂上ノ一圓ノ心ヲ。代、心ノ一字」テソウ。師云、心ヲハ、何トツタエ、ナント相」續シタソ。代、以心傳心。師云、釋迦ヨリ」六十九世周看・用益トツリツ、ケタ」首尾ヲ合セヨ。代、我今盧舍仏。」

勃陀勃地之參」

師云、勃陀勃地ヲ。代、心仏無碍^デカ、勃陀」勃地デソウ。師云、其意ヲ。代、光明照」世間。」師云、釋迦ヨリアマ妙心ニツリツゞケタ」キラ。代云、本有圓成如來、却同迷途^{トウ}」同^ニ衆生^ニ。師云、道心道滿ヨリ釈迦ニツリツ、ケタキラ。代、迷途^ノ衆生却同^ニ本有圓成^ノ如來^ニ。」

門中傳底此上無之。」

長源九世觀峰叟」

付与 融益和尚」

天正^{辛酉}二月吉日」



双林寺切紙013 勃陀勃地之梵語

(143) 勃陀勃地之梵語

(端裏)

勃陀勃地之梵語

釋迦牟尼佛勃陀勃地摩訶迦葉勃陀勃地

為哲勃陀勃地正栢勃陀勃地慶瑱勃陀勃地宗祥

○圓相、縱橫宛轉兒^{ナル}故無終無始、自在縱橫也。」

即是蓮華法益^ト云也。」

○勃陀勃地、梵語也。茲者、菩薩摩訶薩、內心^ハ佛心^ハ而、外相菩薩相也。嗣書如此可書也。」

○佛祖命脉、證契即通、坊主即通、正栢通慶勝通宗祥

至祝^{々々}至禱^{々々} 在判

梁樞正栢和尚、宗祥禪人^仁付之畢。」

時天正十二年^{甲申}二月吉日」

双林寺切紙〇一ト拈花微笑参

(144) 拈花微笑参

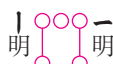
(端裏)「拈花微笑参尖堯拜」

●左手
一 数始
二 明始
三 事始
四 外始
五 横
六 一、正法、涅槃、實相、微笑
七 真空
八 九
九 横

ハジメ 有時不見 心花發明 靈々寂々 妙異本

葉落皈根

●拈花即妙、十箇指頭、横豎異名、



十、微笑、只是阿、其形只箇阿

●右手
一 豎位
二 月輪
三 右眼
四 性空
五 外窮
六 十豎位窮、
七 眼藏、妙心、無相、法門
八 暗昏々
九 十方照刹
十 來時無口

無色空

拈花即妙ヲ云エ。左手右手。一中十位ヲ云エ。横位豎位。横位異名ヲ云エ。主 日輪 月輪。

●和合妙相異名

五六ヲ云エ。左眼右眼。七八ヲ云エ。真空性空。九十ヲ云エ。横 一 豎 一。総結ヲ。明々。

始也 窮也

●横ノ一豎ノ一ニ當テ云エ。明ノ始又暗ノ終。左眼右眼ニ當テ云エ。夏ノ始理ノ終。真空性空ニ當テ云エ。外ノ始外ノ終。」●横ノ一豎ノ一ニ當テ云エ。横位横^{横アリ}豎位豎^{キツマリ}。明々ニ當テ云エ。一^{横ニキカ也}明豎明、畢竟微笑、唯是レ阿。師云、「阿形相ヲ云エ。白晝也、四方一色。八箇ノ阿ヲ云エ。五ノ指ヲ兩方ヨリ向フ。和合妙相ノ異名ヲ云エ。正法、眼藏、涅ノ槃、妙心、實相、無相、微妙、法門。各ノ左ノ阿ヨリ八ニ合スル也。正法眼藏ニ當テ云エ、眼看テ不レ見暗昏々位ニ合ル也。」涅槃妙心ニ當テ云エ。心花發明照十方利。實相無相ニ當テ云エ、靈々寂々無色空。微妙ノ法門ニ當テ云エ。葉落皈根、來時無^{ハシメ}レ口。

●横位ニ八方具^{ツツサ}ニ云エ。一四方羅^{フツツ}。豎位ニ大地ノ二位ヲ具サニ云エ。天地和合スレバ三位。具^{サニ}三位云エ。過現未振舞一筆勾下。或上視下視。」

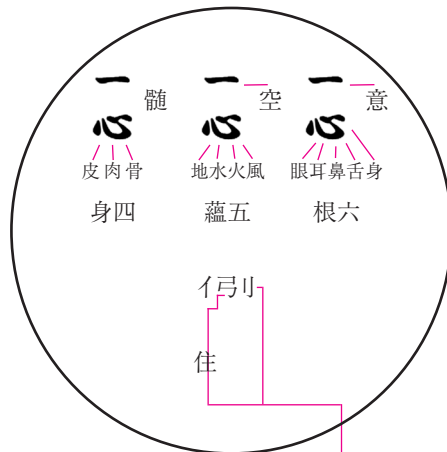
●瞿曇尊老ハ、何ト拈^ツ御座走。一位ニ拈^ツ御座走。頭陀尊者ノ微笑ハ、何ト笑テ御座走ゾ。一位ニ笑^{シユ}テ御座走ゾ。拈ジタハ從縁、微笑ハ不從縁、外ノ塵トハ、何ヲ云ゾ。云々、色相ヲ申ソウゾ。外トハ、何ヲ云ゾ。性^ガ、外デ走。一^ハ陰位、一^{シユ}陽位、和合妙相、十方ヨリ見ルニ、一人ノ横ハ^{ハツ}、縦ハ^{ホツ}ナリ。人ノ二也。」

天正十七己丑臘月吉辰

傳室在判

林下曹洞宗における相伝史料研究序説（一二）（飯塚）

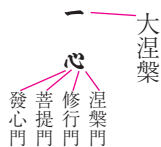
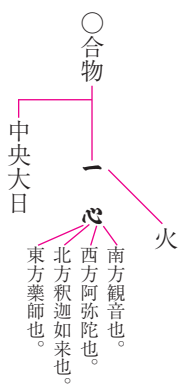
双林寺切紙0145 無徹所
(145)「無徹所切紙」(仮題)
(端裏)「上冊一ハ徹所」



○趙州無。師云、本無ヲ。代、師ノ前ニ入テ、心ノ字ヲ書^ツ是レデ走。師云、有無ノ兩意ヲ。代、一圓相作也。師云、本無當着ヲ。」代、心性正ノ三ツデ走。此四^ツ拂^ツ時、佛也。是ヲ能^ク了^レ得^ル見^レバ、心佛之二字也。於^ニ此^ノ二字^ニ、無形無相成^ルガ故^ニ、釈迦・弥勒護持^ツ命根ト作^シ、外道・^{*}天魔者拱^レ手ヲテ走ゾ。○是即本無也。是即變而○是也。色

空之ニツゞ。此一点者異也。是ニ生滅ノ沙伏ワ無イゾ。程ニ、世間ノ空ハ、空ヲ無ニ佛性、空々真ト云モ向也。引而、祝聖ノ回向ノ時、心性正之三字モ向也。心ハ、無極也。性者、大極也。正者、混頓也。爰ヲ諸佛諸祖モ祝也。心佛、心王、無量壽佛ト心得可キ也。○色 ●空 ○是ヲ色空ノニツ合如此也。○一ハ無味也。心ハ、有味也。」

○一心六点是也 即 示是 米飯錢話合テハ、心此四点ノ味間、○一此一点味無キ也。無味時地獄無也。」



○
二
二

是即爐圓也。

二
二

○心同意。

○一 豎窮三際横該十方是也。示天地・陰陽・一易・二義・四象・八卦是也。呈、種々幻化ノモ、本無者無形無相ナリ」

依、○蹤跡無キ也。サテ亦能ク見得スレバ、面門従り出入也。一 一心是也。傳附 傳室叟

○誓語云、唯獨自明了、餘人所不見。

于時慶長二年

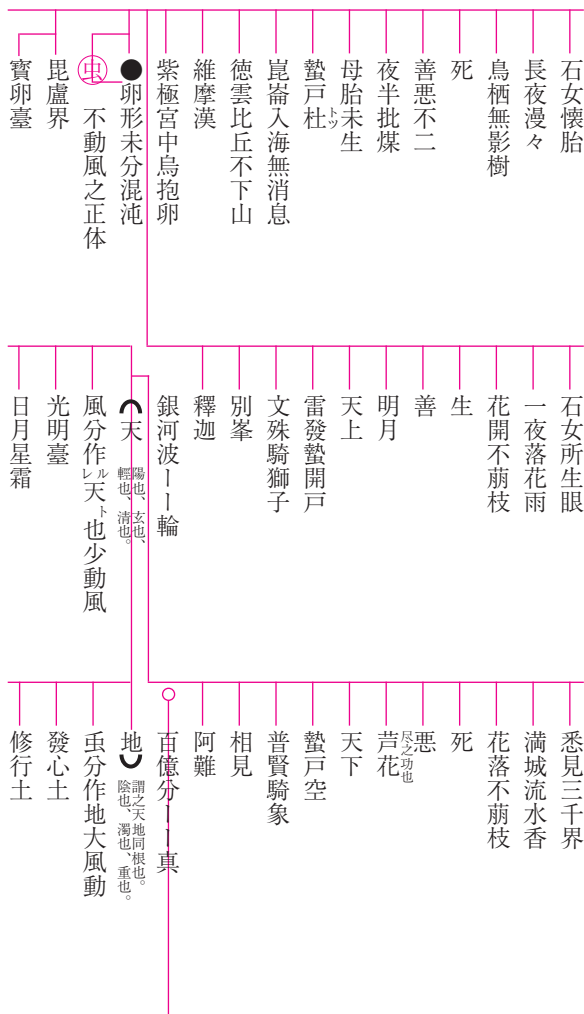


双林寺切紙0146 卵形之圖切紙

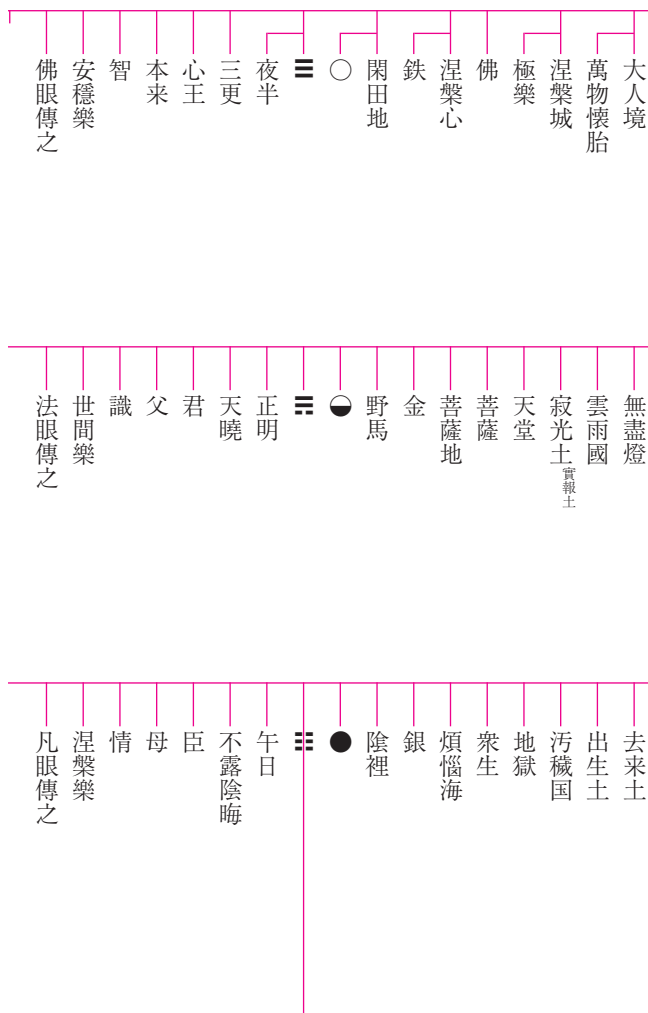
(146) 「卵形之圖切紙」

(端裏)

「卵形之圖切紙」



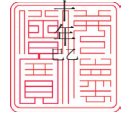
林下曹洞宗における相伝史料研究序説(一二)(飯塚)



鄂州太陽明安大師 投子青 芙蓉楷 丹霞淳 真歇了 天童宗珏
雪竇智鑑 天童南谷如淨、附日本僧道元 々々 懷柴 義介 紹瑾
韶碩 寂靈 惠明 惠徹 代々流傳、今壽泰傳授畢。」

「恕藝授壽泰畢。」

皆慶長十年乙



(花押)

双林寺切紙0147六祖半紙圖

(147)「六祖半紙圖」

(端裏)「六祖半紙圖」

○六祖半紙大夏

釋迦無性也

○全釈迦葉不_レ許、迦葉世尊_{ヨリ}不傳。只黒之」
一位ガ傳衣ト成ツタゾ。一位ヲ渠トモ指ス。渠全」
断絶ワ無ゾ。古心トモ心得可シ。ドレモ無相ノ時、今」
時モ久遠也。」

六祖一世明白裡ヲ不_レ知ヌゾ。

釋迦無性也

釋迦無性也



○師云、参ヲ。代云、

平生末后ナレバ、末后_モ平生」

○畢竟心得可在也。

底益浦益!

付与存達

恕玖和尚判

慶長拾貳年_末正月十二日

林下曹洞宗における相伝史料研究序説(一二)(飯塚)

双林寺切紙0148 三箇行治之切紙

(148) 「三箇行治之切紙」

端裏「三箇行治之切紙」

有善知識三箇行治云、

長誦列祖法^号、而或九拜、或三拜、或一拜。



不可乱臥

不可乱道

皆天正十一年^{癸未}五月吉日 花岳老衲附玄廓」

今日本慶長十四年^{西戊戌}六月吉日^井請翁老衲附存易」



名和尚尚附存瑣畢」



双林寺切紙0149 総而四十三之切紙目錄

(149) 総而四十三之切紙目錄

(端裏)

総而四十三之切紙目錄

切紙目錄次第、総之切紙、是以包者也。」

一、嗣書之樣、

血脉囊之大支、二、道場莊嚴次第、三、嗣書囊^井

佛儀式、話可參、四、鉢盂之圖、五、傳授之儀軌并

八、三箇行治、九、自家訓訣、十、他家之訓訣、

十一、天童之嗣法論、十二、太白峰嗣法合血之圖、

十三、三宝印之印可、十四、榮西僧正記、十五、釋尊遺

戒偈^井參禪在之、十六、迦文勒之三說、大死底本則參得、

十七、嗣書之卷、觀音導利在之、十八、傳授之卷、

十九、血脉之因縁、廿、大支上之大支、廿一、國皇授戒

之作法、廿二、國王授戒作法、(二十三脱力) 廿四、龍

天授戒之血脉、廿五、龍天勘破之機縁、參得在之、

廿六、永平拜問記、廿七、十八般妙語(參得在之)、

廿八、梅花卷、廿九、卵形之圖、三十、空塵書、

二句偈之血脉(付看經在之)、廿二、六觀音圖、

達磨知死後之偈(看經在之)、廿四、没後作僧、參得在

之。」^ハ廿五、七重袋忌不淨、^ハ廿六、曹溪傳授「半紙、^ハ廿七、寶鏡三昧之圖、^ハ廿八、牛窓櫺之圖、^ハ廿九、即心即佛圖、^ハ四十、末后句之圖、^ハ四十一、五位・三位圖^并」^ハ五位本則、^ハ四十二、旦望佛殿札拜燒香儀式、四十三、七佛嗣書、別袋赤錦入^ハ。」

^ハ右如此目錄不可容易他見者也。

無底一派之密要也。末派^ニ不可下^レ者也。」

無底・在室兩判在之。」

慶長十四年^西己酉十月如意^日有易^終而四十二之切紙目錄



双林寺切紙0150 大源和尚之切紙

(150) 「大源和尚之切紙」

端裏「愚明叟／附与全鷲／大源和尚之切紙」

老和尚殘所之一事、先日申上候。」

大慈大悲哀示誨。」

霜月十五日

普藏丈室下^江」

寂靈



七佛儀式之一事尤候。廿日寅剋^ハ可令呈示也。地絹三尺五寸之分^ハ可有用意者也。」

則刻 真在判

妙高^江

付与秀譽

双林寺十二代訣山

于時元和二^丙雪月十三日



(151) 「拄杖拂子切紙」、(152) 「念佛之血脈」省略。

双林寺切紙0153 三國相伝袈裟伝衣之切紙

(153) 「三國相伝袈裟傳衣之切紙」

端裏「^ハ三國相傳袈裟／傳衣之切紙／三衣沙汰^并圖耳也。」

○釋尊於^ニ靈山會上^ニ而爲^ニ衆生化度、名^ニ無相福田衣^一給也。然^ル、^ハ元和尚正法眼藏自^ニ傳衣卷^一移持マ、法衣囊^ニ納^ル者也。」

○五條衣者、表^シ五佛^ヲ顯^ス五智。三十五佛住^ニ其^ノ中^ニ故^者、^ハ此袈裟^一者^ハ、離^ニ五欲^一、斷^ニ五煩惱^一、得^ニ神通^一、備^ニ五

智^ヲ得^リ、三世諸佛諸相傳^ノ袈^一裟也。故^ニ行道衣^ト曰^フ、亦曰^フ作務^一、一切時中、用^ニ此^ノ袈裟^一故^ニ、今汝^ニ授^ニ此衣者也^ト云。」

○七條衣、表^シ七佛^ヲ、顯^ス七菩提・七聖財・七等覺^ヲ支^サ、^ハ皆^ナ在^ニ此^ノ中^ニ、是^ヲ名^テ号^ニ食衣^一。持^テ此袈裟^一、法喜

禪悦食、滿^ニ心中^ニ故^ニ、外^カ離^ル七遮^一罪^ヲ。内^ニ得^リ七種^ノ善^ヲ。此^レ袈裟^ハ、二百三十五佛^ヲ縫^ヌ頭^ス。是三^ニ世^ノ諸佛相傳^一之袈裟也。故^ニ今日授^レ之者也^ト云々^一。

○九條衣者、三世之諸佛^ノ法衣也。上廿五條、下到^テ九條^ニ為^ニ一衣^ト。持^レ此袈^一裟^ヲ者、上中下九條也。授^マ九條^ニ者、如来九識圓備之智体也。此袈^一裟^ヲ三百五十五佛^ヲ縫^ヌ頭^ス。授^ニ此袈裟^一者、離^ニ九忘心^ヲ至^ニ究竟妙覺^一之果^ニ。是則三世^ノ諸佛解脫幢相之袈裟也。故^ニ今授^レ之者^ハ頓^ニ三惡道^一、得^ニ妙樂果^一也云云^一。

○法衣^ハ有三。僧伽黎^ハ大衣、鬱多羅^ハ七條、安陀衣^ハ五條^ハ名^ニ中衣^ト。七條名^ニ上衣、大衣^ハ名^ニ衆集時衣^ト。三世如来並^ニ着^ク如是衣^ヲ。五^一條断^ジ貪瞋業^ヲ、七条^ハ断^ニ心口意業^一、大衣^ハ断^ニ痴心業^ヲ、三衣生^ス萬^ノ善業^ヲ云云^一。

○正法眼藏傳衣卷^ニ云、佛^ハ從^リ佛受^ケ、祖^ハ從^リ祖師受^ケ、如今從^レ何^ニ可^レ傳云云。是即請処也。於^テ爰^ニ拈衣參畢之。應^ッ凡夫即佛傳、佛一度^一還凡夫能護持^ヨ。収^テ囊、師云、如来嫡傳之法衣、而今正至^ニ六十九世^ニ、吾附^ニ授^ル你^ニ、你能護持^ク、於^ニ三尽未來際^ニ、莫^レ令^レ断^ニ絶佛種^一。至祝々^一。如^レ斯三返唱傳受畢^一。

大虚
似始
叟袈
裟囊



迦葉金襴衣^モ
此心^ヲ傳也。
畢竟一圓空也。

圖

六祖傳衣^モ此^ノ心^ヲ傳也。

○佛靈鷲山御建立之時成^ス七種相^ヲ。時以^ニ一圓相^一、彼^ノ外道到^ニシム佛果^ニ。其^ノ後^一山成就而、御說法之時、山前之下者、波築ノ岳ト謂^ウ、山後之下者、波ノ築ノ洞^ヲ謂^フ。彼^ノ兩郷有^ニ意子細^一成^レ沼^ト。佛方便^ヲ以、成^ニ田地^ト給^フ。是^ヲ則^ニ形取^テ五條・七条・九条^ヲ縫立^テ、名^ニ袈裟^一、名^ニ無相福田衣^ト。頂^ニ戴^ル之^一者、五逆・十逆之者^ノ也共^モ、惡逆還^テ成^ニ善事^ト得^ル即^ニ心^一也。自^ニ一^ニ世尊迦葉^一以來、第^ニ傳附而^一、於^ニ天童室^ニ、如淨和尚^一道元^ニ傳附畢。自^レ其歸朝以來、傳^ニ附^シ懷井^ニ、第代到^ニル當門^ト、寬隆^ニ迄^テ傳附畢。今隆和尚存瑣^ニ傳附者^一也。」

寬永七年^{辛未}貳月如意日^一

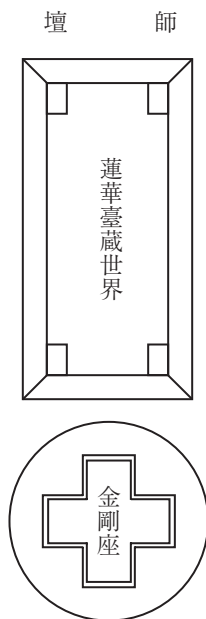
前永平當寺八世天德寬隆老



今存瑣^ニ傳附畢者^一也。」

双林寺切紙 0154 三國相傳金剛座之切紙
(154) 「三國相傳金剛座之切紙」

端裏「三國相傳／金剛座之／切紙」



昔日於^テ靈山會上^一、世尊向^{ニテ}迦葉^ニ曰ク、夫^レ熱^{ツラ}以^{レバ}座具者、蓮臺^一藏金剛座是也。開^{ニテ}此座具^一、奉仰^ニ儔^ニ三世諸佛者、則座^一具之面上^ニ以^{ニテ}皆座給^一而表^シ四性^一、假^ニ表^ニ二十一^一因緣^一者也。依號座^一具也。故善哉尼師檀諸佛所^ニ受用^一、願^ハ共^ニ一切ノ衆常^ニ於^ニ其^一中^ニ座^シ給也。右之則者、三世諸佛之金剛座也。然者、登^ニ此座^一者^ハ、正^ニ座^一ノ金剛座^ニ、三惡趣^一無^ニ怖畏^一云。如^レ是以^{ニテ}道理^一、為^ニ末世之比丘^一・歷代之祖師^一、從^ニ如來^一迦葉的傳以來、西天四七、東土二三、南能北宗、脉々相承、南能^ハ青石藥山^一・雲洞曹承嗣^一來、到^ニ天童淨老^一。今日本吾朝之初祖道^一元入^{レテ}宋^ニ傳法^一時、親^ク傳^ニ得^一此蓮華臺之金剛座^一。自^レ其^一以來、第々^ニ到^ニ當門派代々存瑣^一迄、

林下曹洞宗における相伝史料研究序説(一一)(飯塚)

傳附既畢。」

永平道元和尚、於^ニ末世之門^一家^一、無^ニ此式作法^一者、其之家之門首、從^レ之可^レ有^ニ斷・甄別^一者也云。亦云、既是大地無寸土、為^ニ什麼^一為^ニ座具^一云、又手當胸。云、為^ニ什麼^一恁麼道。云、十方智者皆^一入此宗。云、悉々。

前永平當寺八世天德隆

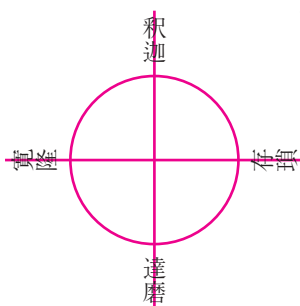
皆寛永七年^{辛未}貳月如意日



附与存瑣九拜。」

双林寺切紙 0155 参禪了畢之切紙
(155) 「参禪了畢之切紙」

端裏「参禪了畢之切紙」



門派大叟參禪了畢。」

皆寛永八年^{丁未}菊月拾五日」

前永平當寺八代天德隆叟納



附与存瑣老柄。」

双林寺切紙0156 円相・大円相・血脉之參三ツ之切紙

(156)「円相・大圓相・血脉之參三ツ之切紙」

端裏「円相・／大圓相・」／血脉之參／三ツ之切紙」

圓相^ヲ。代云、無始無終^テ走。師云、無始無終之^レ時如何^ン。
云、手^ヲクンデ^{モウ}黙トメ云、我今盧舍那佛畢竟也。」

大圓相ヲ。代云、無始無終走。師云、無始無終ノ時如何^ン。
代、三世ノ諸佛^モ如何^ン共セラレ走ヌ、畢竟了也。」血脉之參
ヲ。師云、宝瓶ヲ云エ。挙ス、急度目^{フサイデ}ヲ塞^フ良久」而次第ノ

／低頭^ノ云、ヲ末ノ爰ガ法衣・應器、亦次」

第^ノ仰面^ノ、目^ヲ卒度開^テ左右見^テ、兩ノ手^ヲ頭^ニ互^ニ」指合
テ、無宝瓶傾ケテ走処ヲ。師云、嚀一物^モ不^レ遺^{サス}ト云^モ澄
タカ、懷敵記スト云モ澄^スタカ、」同傳授之參^ト云モ澄タカ、了
也。爰テ其俣イツシテ」帰ル也。能心得可。」

皆寛永八年菊月吉辰」

前總持當寺十世訣岑存瑣



双林寺切紙0157 生死事大切紙・懷人之作法

(157)「生死事大切紙・懷人之作法」
端裏「生死事大切紙・懷人之作法」

懷妊女人死去之大叟

上十五日^ニ死スルヲバ、子ヲ男子^ニ定メ、下モ十五日ヲバ、
女子^ニ定メテ、名ヲ付デトムラウ也。剃髮ノ時^ニ、同偈ヲ
唱ル」叟三返。偈云、剃除鬚髮、當願衆生、永離」煩惱、究
竟寂滅。次^ニ十佛名ヲ唱了テ、一喝デモ躍」倒^ニテモ、産出
ノ動キヲナスベシ。人々ノ修行程ドスベシ。」此修行無キ故^ニ、
脇ヲサキテ子ヲ得ル也。」
握^ニ兼中到^一、開^ニ兼中至^一。上ハ全死、兼中到、下ハ幻化」泡
影生^テ、兼中到也。上圖ヨリ出テ、亦黒処^ニ窮^ベ。無位^ニ」収
レバ、ニツトモ^ニ無用処也。」

生死叟大」

在判



天童山如浄禅師付与道元和尚

寛永九年^西九月吉日

附与

双林寺切紙 0158 拄杖大夏

(158) 「拄杖起大夏」

端裏「拄杖起大夏」



拄杖大事

拄杖所^レ起^ル、釋迦如来ノ時代、鉄虫^ト謂^ウ有^リ虫、上有頂天、下金輪水際、「須弥百億枹名虫也。彼ノ鉄虫、衆生食^{スル}」恒河沙也。此ノ虫^シ喝羅々國^ニ至^ル。佛為^ニ末世ノ衆生ヲ引導^シ、彼ノ虫^ヲ御弟子^ニ摩頂^シ給^ウ。其ノ名^ヲ号^ス拄^一杖^一、在^ニテハ真言一名^ニ散杖^一、在^ニテハ武子一名^ニ弓箭^一。彼ノ拄杖日月也。彼ノ枹^ニスレバ拄^一杖^一、天下太平、國土安穩也。彼^ノ以^ニ拄杖^一、衆生^ヲ化度引導^{スル}也。此ノ杖子、日也、鳥也、照^ニ天地^一。月也、兔也。依^テ此^ニ名^ニ兔角ノ拄杖^一也。」

林下曹洞宗における相伝史料研究序説 (一一二) (飯塚)

延文元年八月時正日 永平道元在御判
皆寛永拾季 三月廿二日

師云、拄杖^ヲ云へ。代、師^ヲ托開^ク、吾^モ放身^ノ臥^ス。師云、徹処^ヲ。代、不^レ慕^ニ諸聖^一、不^レ重^ニ己靈^一。師云、畢竟^ヲ云へ。代、拂袖^ヲ去^ル。」



心嶺(花押)

双林寺切紙 0159 宗門二柱切紙

(159) 「宗門二柱切紙」

端裏「宗門二柱切紙」

宗門二柱之切紙

大虹梁也。已下之虹梁者不^ル大^{ダイ}ニ也。

主位之大虹之柱
無極

文殊師利

本師釈迦如来

普賢薩埵

大極
客位之大虹之柱

【*下段】

〇^ハ本尊於。云、豎^ハ普賢、横^ハ文殊。〇^ハ師云、豎^ハ横^ハ中間於。
〇^ハ良久云、即是久遠実城如^ハ来。〇^ハ亦、我今盧舍那佛。〇^ハ
師云、豎^ハ横^ハ何^ハント^ハ連タゾ。〇^ハ云、豎^ハ法身^ハ連リ、横^ハ
ハ法性^ハト連^ハテ走。〇^ハ師云、此外説破セヨ。〇^ハ云、一機^ハト連リ、
連枝^ハト連リ、同身共名^ハト連リ、即金烏玉兔兩^ハ光^ハト連リ、有
相無性、空相無形、本寂^ハト連ナツ^ハタ故ニ、豎^ハト云ハ恵日大
聖尊、横^ハ滅度多宝佛。〇^ハ豎^ハ金剛界夏法身、横^ハ胎藏界理^ハ
法身^ハデ走。〇^ハ師云、ドコ迄^ハデ連タゾ。〇^ハ豎^ハ上有頂天、下

阿鼻獄、横^ハ只今阿僧祇^ハ外迄^ハデ連テ走。〇^ハ師云、豎^ハ与^ハ横
窮^ハリヲ^ハ一句^ハニ云ヘ。〇^ハ云、豎横窮限無^ハイ処ガ、キワマ^ハリ
デ走。〇^ハ師云、行李ヲ。〇^ハ弘袖^ハヲ去^ハル。〇^ハ師^ハ云、趨住^ハシテ速
道^ハ々々。〇^ハ抽身^ハス。

孝顯現住

寛永拾年暮春日

心嶺堯叟



双林寺切紙0160曹洞之機切紙

(160)「曹洞之機切紙」

端裏「曹洞之機切紙」

曹洞之機

天曉不露

夜半正明

于時寛永拾年吉日

孝顯閑居心嶺叟

傳附淳鋤長老。」